

第 40 回熊本実技セミナー（基礎&スキルアップセミナー）開催報告

開催日時：平成 28 年 11 月 5 日（土）9：00～16：00

開催場所：医療法人桜十字 桜十字病院 リハビリテーション室

主催：桜十字病院

共催：NPO 法人 口から食べる幸せを守る会®

後援：株式会社クリニコ・株式会社大塚製薬工場

開催目的：早期経口摂取開始および継続していくために必要なスクリーニング評価や食事介助技術などの包括的スキルの向上を目的とし開催する。



【講師・アドバイザー】（敬称略）

氏名	所属	職種（摂食嚥下に関する資格）
小山 珠美	NPO 法人口から食べる幸せを守る会 JA 神奈川県厚生連伊勢原協同病院	NPO 法人口から食べる幸せを守る会 理事長 看護師 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 KTSM 実技認定者
竹市 美加	NPO 法人口から食べる幸せを守る会 ナチュラルスマイル西宮北口歯科	NPO 法人口から食べる幸せを守る会 副理事長 摂食・嚥下障害認定看護師 看護師 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 KTSM 実技認定者
建山 幸	桜十字病院	看護師
井野 美穂子	熊本リハビリテーション病院	看護師 KTSM 実技認定者
山下 裕史	熊本リハビリテーション病院	言語聴覚士 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 KTSM 実技認定者
平野 宏一	熊本リハビリテーション病院	看護師 KTSM 実技認定者
嶋津 さゆり	熊本リハビリテーション病院	管理栄養士 KTSM 実技認定者
下田 加奈	JA 熊本厚生連	看護師 KTSM 実技認定者
榎本 淳子	玉名地域保健医療センター	看護師、社会福祉士 KTSM 実技認定者
安部 幸	社会医療法人 帰巖会 みえ病院	摂食・嚥下障害認定看護師 KTSM 実技認定者

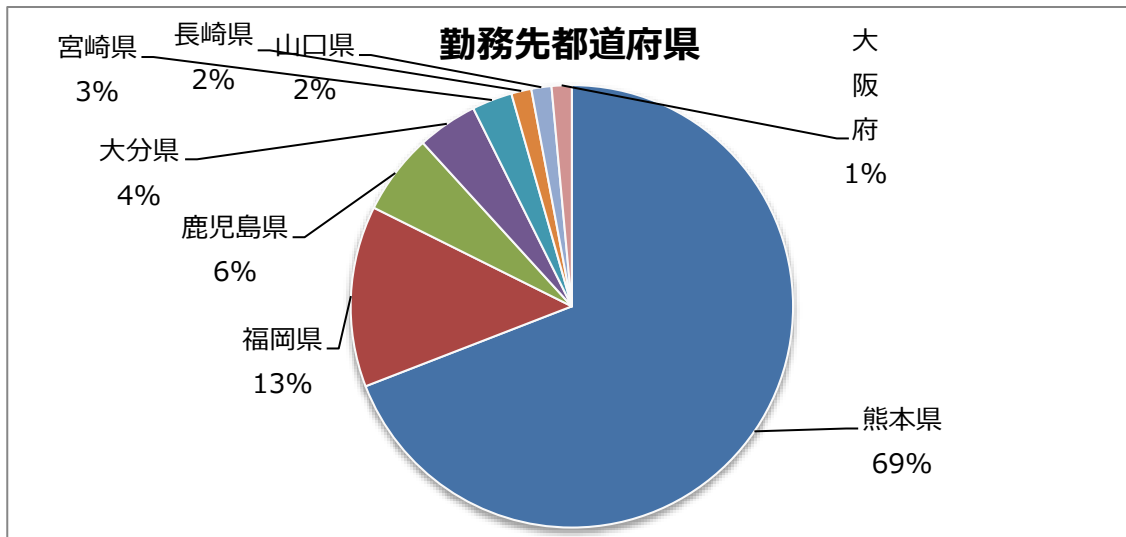
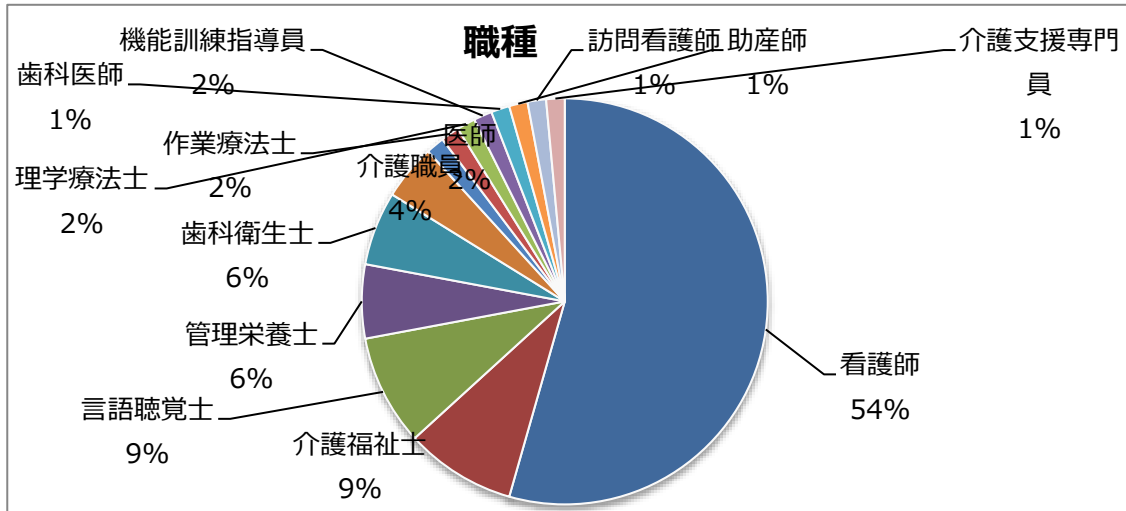
田平 佳苗	国立病院機構 熊本医療センター	摂食・嚥下障害認定看護師
佐藤 さと子	気仙沼市立病院	看護師 KTSM 実技認定者
三束 梨沙	気仙沼市立病院	言語聴覚士 KTSM 実技認定者
小野寺 裕子	社会福祉法人なかつみ会	看護師 KTSM 実技認定者
外山 慶一	潤和会記念病院 口腔リハビリテーション研究会	言語聴覚士 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士

<セミナーの様子>

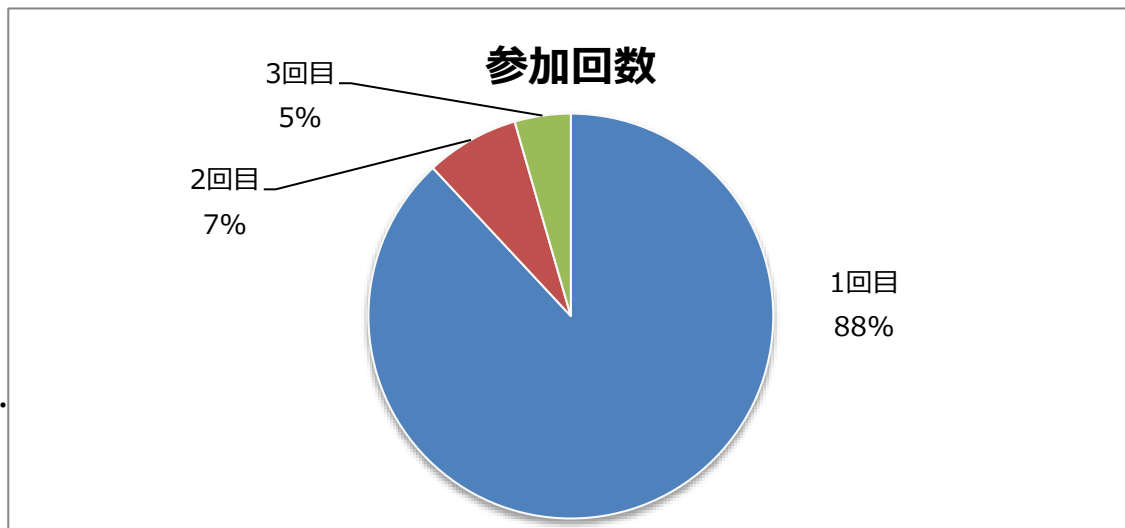


アンケート集計結果（回答数：68名，回収率：96%）

Q1.参加者の職種と勤務先の都道府県



Q2.KTSM 実技セミナーへの参加回数と参加理由



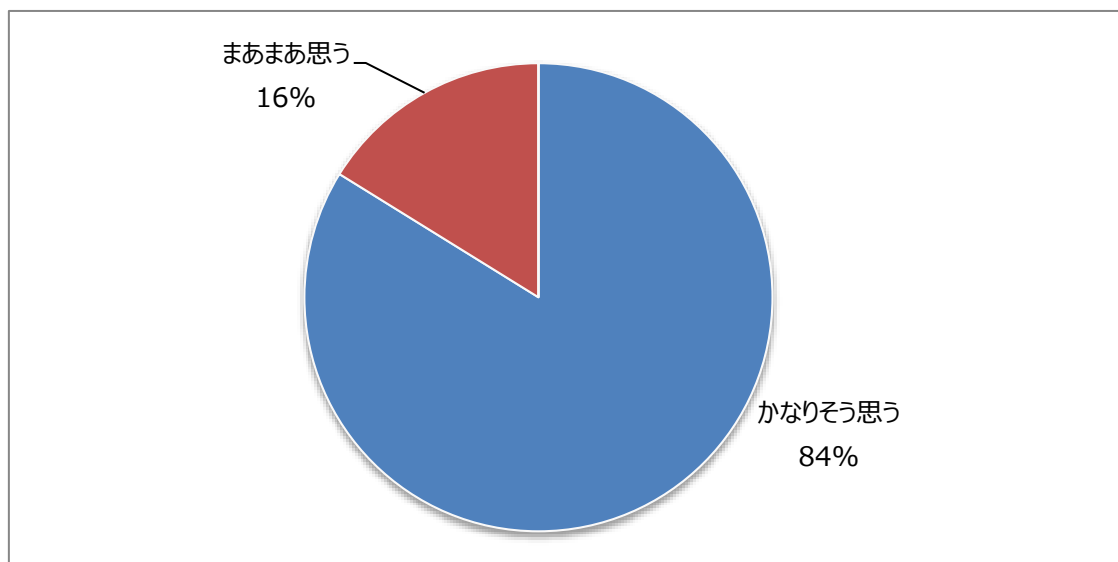
(参加理由について)

- ・院内で「口から食べるプロジェクト」に参加しており、自分の看護観も「最後まで食べたいものを食べてもらう」だったので、興味があり参加させて頂きました。
- ・食事摂取に問題を抱えている入居者様が経口摂取できるよう支援していきたくった為。
- ・NST 委員を行うことになり、食べることの必要性を意識するようになった為。
- ・食事技術のスキルアップの為。口から食べるための包括的評価を学びたかった。
- ・何度か小山先生の講義を受け、とても興味深いものがあり、自分もマスターしたいと思っていました。実技が出来ると聞き、スキルアップしたかったです。
- ・ご利用者の方に、口から食べる幸せ・喜びを感じて頂きたいと思っていたが、そのためには自分がどう関わっていけばいいのか学びたいと思い、参加しました。
- ・KTSM 実技認定看護師より声をかけてもらい、口腔・摂食への関心もあり興味もあるのに知識も技術もなかった自分に、自信を持って看護にあたりたかったから希望した。
- ・安全で効率的な食事介助や支援技術について知識・技術を習得し、今後に活かしていきたいと考え、参加しました。
- ・NST 活動をしていく中で難渋する症例に多く対面し、ヒントを得られればと思い、参加を希望しました。
- ・食事介助法やポジショニング等の具体的な内容を体験したかったため。
- ・小山先生の NHK の番組を見て。自分の食事介助困難場面での介入方法に疑問を感じたから。
- ・自身の技術を見直す機会が欲しかったから。
- ・今まで食事介助を行っていて、「これでいいのか」「自分のやり方で間違っていないか」と疑問を持っていた為。
- ・様々な理由で、経口からの食事が難しい患者さまがいらっしゃいますが、そのような方々が経口摂取できるようになるためのスキルを学びたいと思い、参加しました。
- ・熊本地震の際、嚥下力の低下が多くみられ、対処法が分からず、もっと技術を身につけたいと思い、参加しました。
- ・前回参加した際、嚥下評価と介助が全然出来ておらず、すごく勉強になりました。その後、実際の患者さんに対してポジショニングや評価を行ってきた中で、どこまで学んだことが身についているのか、という再認識・再学習の目的で参加しました。
- ・食事介助技術やポジショニングについて悩んでいる患者さまがいた為、少しでも自分に出来る支援を見つけれればと思い。
- ・認知症の患者や嚥下機能が低下している方に対するアプローチの仕方を学びたかった為。
- ・兵庫県で開催されたセミナーに参加し、その時に実技セミナーが地元の熊本であると知り、ぜひ受講して技術を身につけたいと思ったため。
- ・NHK プロフェッショナルと小山先生の講演・本を読み、もっと詳しく学びたいと思い、参加しました。
- ・口から食べることの実技セミナーに参加し、職場にしっかりと伝え広げていきたいと思い、参加しました。
- ・プロフェッショナルに出ている小山先生を見て興味を持ったのと、実践能力向上の為。
- ・在宅復帰強化型病棟で勤務しており、退院するにあたって、経管栄養から経口摂取へ移行する患者さまと触れ合う機会が多いため、作業療法士としての関わり方、アプローチ方法を学びたいと思い、参加させて頂きました。
- ・現在、摂食嚥下機能改善検討委員会をしています。実際の食事介助で困ったことがあり、取り組みで

本当にこれで良いのか、と思うことがあり参加させて頂きました。

- ・前回、アドバイザーをさせて頂きました。まだまだ技術面の未熟を痛感しました。現場で実践する機会がない為、今回、もう一度確認しながらスキルアップを目指したいと思い、参加しました。今後は現場で積極的に行っていきます。
- ・4月から配属された病棟は「口から食べるプロジェクト」に力を入れている病棟で、これまで以上に食事場面に向き合う回数が増えました。しかし、私自身がPTとして摂食・嚥下に対する知識・技術が乏しく、歯がゆい思いをすることが多かったため、今回参加させて頂きました。
- ・現在、私はデイサービスで看護師をしています。病院に勤務していた時には嚥下評価や訓練等に携わっていましたが、機能改善され退院された患者さんが在宅に戻り、また誤嚥性肺炎を起こし病院に戻ってくる。そして何度もそれを繰り返し体力が低下し死に至るというケースを多く見てきました。これからは在宅に携わる看護師が、正しい評価・介助が出来る事が家で過ごせる喜びにつながるのではないかと考えております。病院に比べると症例は少ないですが、お一人お一人の喜びのため、家で家族と一緒に暮らせる時間が少しでも長く質良くいられるようにと思っています。
- ・職場で摂食・嚥下のコースを取り、NHK プロフェッショナルを見てぜひ食事介助の技術を身に付けたいと思いました。プロフェッショナルを見て感動しました。
- ・以前、小山先生の講義を聞いて、再度、口から食べる大切さを学びたいと思ったから。
- ・口から食べる重要性を小山先生から学んだ。知識と共に技術を習得するため。
- ・高齢化が進む中で、担当の利用者様・居宅全体での利用者様の中でも誤嚥性肺炎を発症する方が多くなってきました。自分で勉強することで、管理者の立場にもあり、事業所・自分のスキルアップにつなげたい。

Q3.スキルアップにつながったと思いますか？その理由は？



(理由について)

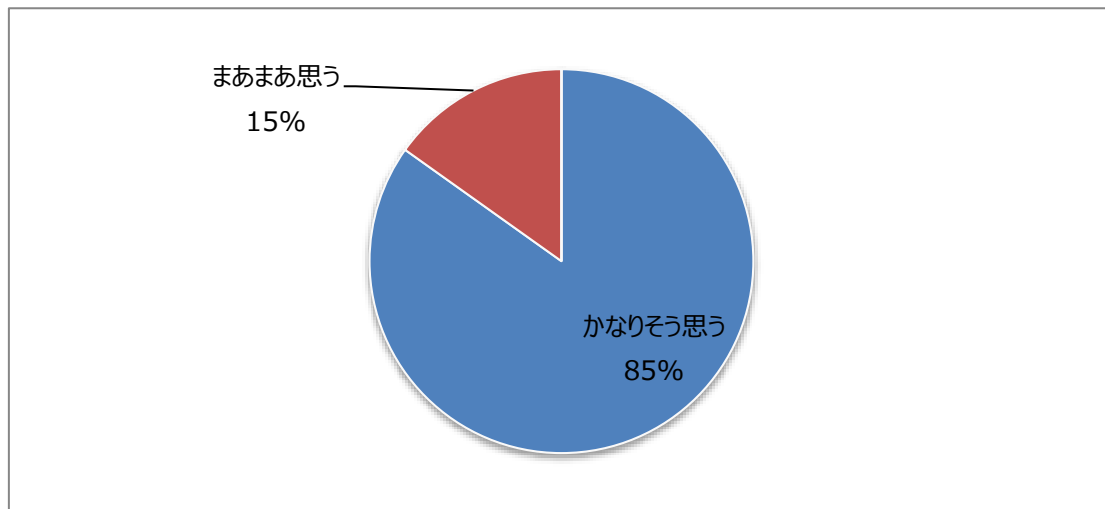
- ・実践セミナーはとても勉強になりました。口から食べる事が生きる喜び・幸せに生きる為、患者さまの為に口から食べる支援が出来る介護職員になろうと思います。
- ・スプーンの入れ方、持ち方がすごく難しかったです。そこを実技でしっかりやる事が出来たので良かったです。
- ・食事をするために13項目もの観察が関わってくることを知り、患者さんがむせてるから食事をやめるので

はなく、何が原因なのか追求することが必要。

- ・日頃行っている事が曖昧な所があり、本日アドバイザーからの指導を受け、これからの食事介助に活かしていく。私も患者さん・ご家族からの食べれるサイン、または食べれるという事を諦めず介入していく。
 - ・今まで職場で行っている食事介助の方法やポジショニングは間違っていたんだと学び、新しい方法を知り、とても勉強になりました。
 - ・食事だけでなく、口腔ケアや歯科治療にも応用できると思った。
 - ・評価など、食事開始時は ST にまかせっきりの状態だったが、知識として学べたことで、ST とのディスカッションにも介入でき、患者中心のチーム医療に繋がると思う。正しい技術を知れたので、実践し、自分の技術として繰り返し身につけていきたいと思う。
 - ・日頃行っている食事介助が、主語が自分になっていたことに気づいた。今日学んだことを職場に持ち帰り、実践していきたい。
 - ・食事介助に関して本当に無知であったと実感しました。奥が深く今後も勉強していきたいと思いました。
 - ・相手の立場になって、手や口となることの大切さを実感しました。
 - ・今までやっていた介助方法が間違いだらけで、自分自身がされたら嫌だと感じることを利用者の方はやっていた事がはっきりして反省した。
 - ・一度、小山先生の研修を受けたことがあり、自分では出来ていると思っていたのですが、今回のセミナーで出来ていない事が明確化されました。再度、現場で活かせるよう、明日からの仕事で実践していこうと思います。
 - ・具体的な内容だったので。特にポジショニングやスプーンの使い方は知っているようで分かっていないことばかりでしたので、非常に勉強になりました。
 - ・食事における姿勢・ポジショニング・テンポ・開口していない患者に対してのアプローチなど、明日からにでも実践できる事を学んだので、非常に勉強になった。
 - ・聞くだけではなく自ら体験してみて患者さまの気持ちになって体感することが出来、また、アドバイザーの方に直接指導して頂いて自分のスキルを身につけることができたと思います。
- NST 委員の仕事を「忙しいのに、仕事量も多いし…」と嫌々することもあったが、とても大事な患者さまの“今後”をつくる、とても大切なものと認識を変える事が出来た。
- ・スプーン技術を実際に行って難しさや工夫を教えて頂いたので技術向上できるよう経験を積んでいきたいと思います。
 - ・ゼリー、水分、固形物を舌のどこに置くのか。ポジショニングの大切さ、個別性をしっかり見ていきたい。
 - ・相手の身になってということ、本人の手の代わりになるということが分かってきた。(スプーン操作)
 - ・今まで自分が行っていたポジショニング、食事介助で間違っていた事を発見することが出来、明日から実践できる技術ばかりでした。明日から実践し、他の方々にも伝えたいと思います。
 - ・スクリーニングに関しては、現場で実践することがほとんどなかったが、今後は意欲的に行っていきたいと思いました。ポジショニング、シーティングなどもスタッフに指導していく自信が少しずつですがつきました。
 - ・自分自身が患者側の経験を出来、「次、私が介助者になった時はこうしてみよう」と様々な考えが出てきました。今日教えて頂いた技術を繰り返し練習して、さらにスキルアップできるようにしていきたいです。
 - ・実際に思い悩んでいた患者さんの事例について、まだまだこれから自分が出来る事はあるのではないかと感じました。現場に戻って、もっとなぜ出来ないのかを観察し、KTBCを取り入れて評価していきたいと思っています。

- ・本当に自分は全量摂取させるということだけを考えて援助していたんだと反省しました。患者の力を最大限生かせる関わり方を今後はしていきたいと思います。
- ・病棟での問題点や不足している点が明らかとなり、今後、どのように活動していくべきか明らかにすることが出来た。
- ・不適切な対応を自分がやっており、それが間違いだと思ってもいなかったもので、間違いに気付け、スキルアップにもつながったのではないかと思います。
- ・やってはいけない介助をしていました。
- ・実際、口から食べてもらうことに意識集中出来ていなかった部分があり、中途半端な作業になっており、全く患者の為になっていない現実を実感しました。
- ・食事介助出来るスキルがありません。しかし、今回具体的な症例、サポーターさんの説明に一步踏み出せる気になりました。
- ・苦手だったスクリーニング評価を学べた。開眼・開口・閉口動作のアシストを学べた。
- ・あまり現場をすることはなく、知識のみで来ていました。演習を行うことで、その人の気持ちを考えることが出来ました。

Q4. 今後の実践場面で活用できますか。どんな場面で活用出来ますか。または、活用できない理由について。



(理由について)

- ・毎食時の食事介助に、今日のセミナーで勉強した事を実践していこうと思います。デイルームでの食事介助も多く、今までただ食事介助するだけであり、一人一人のポジショニングや、患者さまに合った食事方法を身につけ、一人でも多く、食べる楽しさを伝えていきたいと思います。
- ・現病棟では摂食機能での入院も多くある為、入院初期からのNsサイドでのスクリーニング評価を行い、早期の経口摂取スタートができるようにしていくために活用していきたい。また、多職種連携を密にしていくためのKT バランスチャートを用いて「在宅」まで栄養管理、経口摂取の継続をしていくために活用したい。
- ・食事介助時、五感を使って食事をするを誘導し、スプーン操作も介助側・患者側・周りで見ることで一番嚥下しやすい方法を学ぶことが出来た。
- ・入院当初からKT バランスチャートの活用を始めていく。患者さんの五感を働かせて摂取を促す。ポジシ

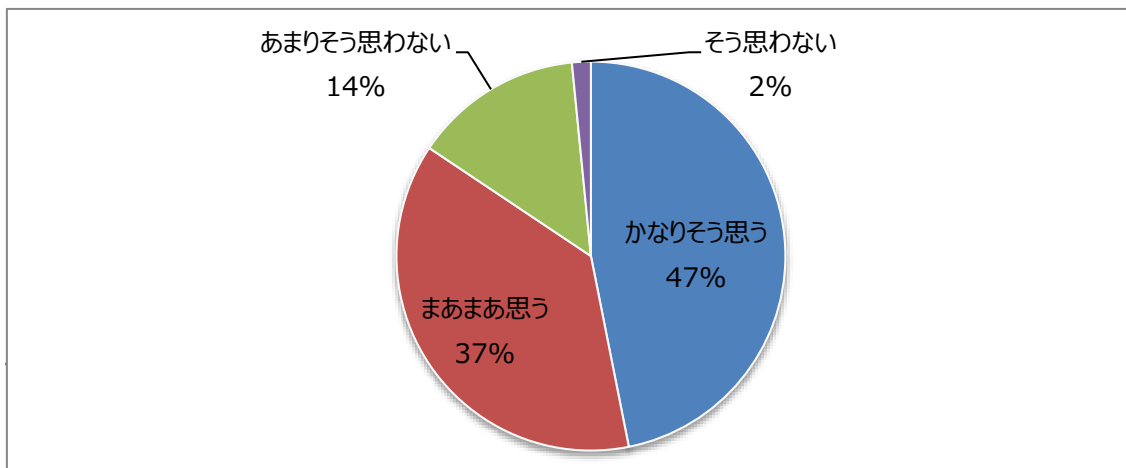
ヨニング角度を調達して活用していく。

- ・食事をなかなか摂取してくれない患者さんに無理に自分なりの介助で行っていたのですが、それは患者さんにとって苦痛な援助だったのだと感じました。無理に食事を口に入れるのではなく、今日学んだ援助を自院で行いたいと思います。
- ・患者さんが食べない、むせるなどの症状は自分が起こしていたんだと思った。開口・閉口しない患者さんに対し、正しくアシストできるようにしていきたい。
- ・五感を使うこと、両肘・足・頭等のポジショニング…など、実際の食事介助場面で間違った方法を見かけた時に助言が出来るように、今回学んだことをフィードバックしていきたいと思います。
- ・評価や食事介助・訓練の場面。また、ST 介入以外の患者さんでもアドバイスが出来そう。
- ・介助技術だけでなく、環境を整えることの大切さ、ポジショニングではタオルの活用法すべてが勉強になりました。
- ・スプーン操作・姿勢など患者さんの気持ちを体験出来たことにより、考えることができ、活用していきたいと思います。
- ・今回、具体的に「口を開けない」「口を閉じない」「円背」といった課題についての実践的方法を見せて頂き、可能性をたくさん頂いた気持ちです。
- ・誤嚥性肺炎を繰り返す患者さまや、お楽しみ程度にゼリーを食べてらっしゃる方に KTBC を使用して、一人でも多くの患者さまに口から食べて頂きたいです。
- ・全介助や意欲がない方に対していかに安全・安楽・自立を目指していけるかという点。
- ・11 月から病棟移動になり、患者さまで口からの食事を出来る方が 1 名だけなので、食事介助技術を仕事に活かす事が出来ないと初めは思ったのですが、セミナーの最終では、「他にも出来る事はある」と実感することが出来、明日から離床などが出来るよう、Ns・リハスタッフ・栄養科スタッフなど他職種と連携を取り、実践していきたいと思います。
- ・まず、今どうしたらよいか悩んでいる症例について、KTBC を取ろうと思います。そして、どうやったら食べれるか考えます。
- ・口がなかなか開かない方や、逆に常時開いている方が多くいる中、今日学んだ手技は明日からの現場で活用できると思います。
- ・やってはいけない介助が分かり、気になっていた事を知ることが出来た。注意し観察・アプローチを行って良かったと思いました。
- ・ポジショニング・体位変換時の背抜き・食事介助など他のスタッフの方法を見て学んだ事をアドバイスしていきたいと思っています。
- ・見る視点を学ぶ事が出来た。
- ・食事量が増えない、嚥下状態など改善していかない時は、KT バランスチャートを使って、スタッフ皆でどうすればいいか考えていきたい。
- ・現在は看護職を離れているが、看護の場に戻った時に介助する人に伝えていける。(ポジショニング・車椅子シーティング・食事介助について)
- ・ポジショニング・環境設定等、普段のアプローチにて行っている為、今回実技で学んだタオル、クッションを用いたポジショニング方法や、食事介助方法を実践し、改善していきたいです。病棟へ伝える際に、“どこをどのようにポジショニングする”と具体的に伝えていきたいです。
- ・施設訪問時に、経口訓練開始時に ST が入らなくても、実際やっていくようにしたいと思う。(今までは

自信もなく、機会もありませんでした) また、訪問先で家族にもポジショニング・シーティングの指導を積極的に行っていきます。

- ・ポジショニングの重要性を再確認出来た為、まずは担当患者の食事中のポジショニングを再検討します。また、栄養補助食品だけでなく、患者さまの志向に寄り添える工夫をしてみます。
- ・認知症で、拒食のある患者さんに対してのアプローチの方法をたくさん学びました。早速、他のスタッフにも働きかけをしていきたいです。また、他の患者さんで楽しみ程度に食べられている方で奥舌の挙上が不十分な方がいらっしゃるの、2本スプーン法を実践していきたいです。
- ・その人その人の問題点を抽出することは大事だと思います。ですが、病棟全体でそれが出来るのかなという不安もあります。(最初からそんな思いではだめだと思いますが…)
- ・認知症の患者さまや意識障害のある方のアシスト法など理解出来た。
- ・認知症や誤嚥性肺炎の患者さんが多くいらっしゃる為、ポジショニングや環境を整えたり、今回学んだことを活用していこうと思います。
- ・患者が食べるまでのプロセスを1から習得させることで、全員が同じケア・アプローチをできると考えています。現場で活用したいと思います。
- ・業務中でのミールラウンド時、院内研修でスタッフへの伝達。在宅訪問での栄養指導時。
- ・仕事上で活かしていきたい。

Q5. 本日の実技セミナーのような研修を自分の病院・施設等で自ら企画して行おうと思いますか。その理由について。



(理由)

- ・もう少し自分も勉強してスタッフに周知したい。
- ・まず病棟でポジショニングと介助法を実践していきたいと思います。
- ・自院で実践的スキルを養い、患者さんに提供したいと思います。
- ・病院のため、看護師サイドの考え方が優先されるし、同席してアプローチしてみないと分からないから。
- ・食事のポジショニングについて。誰にでもすぐ実践できる部分から進めていきたい。
- ・とても大切なことだと思うけど、自分にまだ自信がない。
- ・施設内よりも先に特養の職員への意識を変えることから始めたいと思います。
- ・色々な方に本日のセミナーを受けて頂きたいと思いますが、自分で実施するのはなかなか難しいと感じま

- す。
- ・施設での勉強会を開催予定しています。今日学んだ内容も間違っていたケアを中心に伝えていきたいと思えます。
 - ・現在、アプローチしている患者さまがいらっやっ、今回学んだ事を声かけ、口への運び方、形態などに注意してKTBCを活用し、コメディカルで実践していきたいと思えます。
 - ・まず評価はSTへ、介助はスタッフへの指導を通して自身のスキルアップにもつなげていきたいと思えます。
 - ・本当に良い事だが、苦手なので。(あまりそう思わない)
 - ・病棟スタッフにも食べる事の幸せや大切さをどうやって伝えていけるのか自分なりの課題ではあるが、統一したことを伝えたい。大切さを伝えたい。
 - ・患者さまに学んだ技術を実践し、他のスタッフへも伝えたいです。研修の報告を職員の方へも伝えていきます。
 - ・食べるを支える技術の基礎レベルの実技セミナー。全ての職種を対象に。
 - ・食事介助時、テーブルの高さ、3点90度、しっかり認知させる事など。
 - ・地域の人々に伝える事が必要・重要だと痛切に感じているが、自ら企画するまでの力量がない。
 - ・自分の知識や技術がまだまだ不十分である為、自らでの企画は出来ませんが、セミナーや勉強会があれば参加し、知識・技術を深めていきたいと思えます。
 - ・地域も含めて取り組めたらと思えます。
 - ・訪問先の施設でスタッフと一緒にポジショニング・シーティング・食事介助などの勉強会を企画していきたいと思えます。地域にも少しずつ広げていきたいと思っています。
 - ・自分自身の技術・知識を高めてから考えます。・宮崎でも、今回のセミナーに出来なかったけど、嚥下評価・介助に興味を持った人がたくさんいるので、研究会のメンバーにぜひ伝えたいです。
 - ・実施したいとは思いますが、他者にどう伝えていけば良いのか、まだ不安があります。しかし、まずはプライマリー患者さまをKTバランスチャートを活用し、自分なりに支援を考えていきたいと思えます。
 - ・まずは一人からKTバランスチャートを使ってみたい。
 - ・自分自身の知識向上を心がけて、他スタッフへも企画して伝えたいと思う。
 - ・施設でスタッフへ食事に対する姿勢を浸透させていきたい。
 - ・有料老人ホームが併設であります。PT・Nsと連携して実践していきます。
 - ・病院看護全体の月1回の勉強会の時、発表会があると思えます。
 - ・病棟での復講ならできると思えます。病院での企画はまだ自信がありません。

Q6. 今後の実践セミナーで取り上げてもらいたい内容について

- ・今後も内容充実と全国でたくさんの開催が出来るようになることを祈っています。
- ・食事形態について色々知りたい。
- ・口腔ケアの方法
- ・ミールラウンドの方法
- ・今回の中にもありましたが、実際の症例紹介がとても勉強になります。
- ・拘縮のある方の触り方。痛くないようにポジショニングする方法。
- ・口の中に溜め込む人の介助方法
- ・進行性疾患の方がいます。食欲あります。機能低下がはっきりしている方に最後まで食べていただくには

どうしたら良いか。

- ・拘縮の強い方の症例（ポジショニング）
- ・1 回ではなかなか全てを理解することは難しいので、もう一度受講したいです。ぜひ福岡での開催をお願いします。
- ・2 日間程にかけて行って欲しい。
- ・KT バランスチャートの活用を食事だけでなく事例を通し、活動生活の質の向上まで学べたので、もう一度本を読み、活用してみたいと思います。
- ・実技をゆっくりと時間をかけて習得したいと思いました。
- ・KT バランスチャートの実施方法について。（具体的な事例を通し、学びたい）
- ・今日は、本当にありがとうございました。
- ・口腔ケアを学びたいです。
- ・家族の心情の変化。
- ・成功事例、やっぱりダメだった事例を行ってみたいです。
- ・緩和ケアでの実技セミナー
- ・現場での実技レッスン